

資料No. 3 - 1

感染症定期報告の報告状況

感染症定期報告の報告状況(2006/10/1~2007/3/31)

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
1	2006/10/5	68034	日本メドトロニック株式会社	人工血管付ブタ心臓弁 ブタ心臓弁	ブタ心臓弁	ブタ大動脈弁及び大動脈基部	米国	組成・構造	有	無	無	HEV	Rev Med Virol 2006; 16: 5-36	421のHEV単離株のヌクレオチド配列をGenbankで検索し、分析した。HEVは系統発生的に4つの主要な遺伝子型に分類された。遺伝子型1は5つの亜型に分類され、アジアとアフリカの熱帯および亜熱帯諸国から、遺伝子型2は2つの亜型に分類され、メキシコ、ナイジェリア、チャドから単離された。遺伝子型3と4は、各々、10および7の亜型に分類され、前者はほぼ世界中で、後者はアジアでのみ単離された。また、遺伝子型3と4はヒトと動物からの配列は保存性が高い。
												HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 579-586	世界各地のブタ同様、わが国のブタでもE型肝炎ウイルス(HEV)(遺伝子型3型と4型の土着株)の感染が蔓延状態にある。実験的にブタからチンパンジーへのHEV感染が立証され、ヒトHEVと塩基配列が100%一致するHEV株がブタから分離されている。E型患者が多い北海道では多数の患者が発症1~2ヶ月前にブタレバーやホルモンの摂食既往を有し、市販のブタレバーから1.9%(7/363)の頻度でHEVが検出されていることからブタの肉や内臓を生、あるいは加熱不十分な状態で摂食した場合に感染する危険性がある。
												レンサ球菌感染	PLoS Med 2006; 3: e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2(SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。
												インフルエンザ	感染症学雑誌 2006; 80: 1-7	インフルエンザについて、パンデミックの鍵を握ると考えられる鳥インフルエンザウイルスを中心に、インフルエンザウイルスの構造特性、宿主特異性、新型ウイルスの出現メカニズム、病原性、新型インフルエンザ対策の現状と展望について概説した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 34-39	インフルエンザ大流行のリスク評価は不確かな技術である。インフルエンザAウイルスの大流行は10年から11年毎に生じるという理論およびウイルス再生の血清考古学的エビデンスが、1976年初めのNew Jersey州Fort Dixにおけるブタインフルエンザ発生のリスク評価および管理のきっかけとなったが、この理論は支持できないことが明らかとなった。大流行するインフルエンザAウイルス株を出現させる正確な条件は未だ不明である。
2	2006/10/5	68035	日本メトロニック株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム ヘパリン使用大腿動静脈カニューレ ヘパリン使用人工心肺用貯血槽 ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ ヘパリン使用体外式膜型人工肺 ヘパリン使用大動脈カニューレ ヘパリン使用大静脈カニューレ 人工心肺装置の付属品(貯血槽) 人工心肺装置の付属品(心内血貯血槽) 人工心肺装置の付属品(流量測定用コネクタ) 膜型人工肺 人工心肺用血液回路 人工心肺用ポンプ	ヘパリン	ブタ腸粘液	中国	組成・構造	有	無	無	HEV	Rev Med Virol 2006; 16: 5-36	68034に同じ
												HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 579-586	68034に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌感染	PLoS Med 2006; 3: e151	68034に同じ
												インフルエンザ	感染症学雑誌 2006; 80: 1-7	68034に同じ
												インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 34-39	68034に同じ
3	2006/10/2	68036	カーディナルヘルス・ジャパン228株式会社	滅菌済み体内留置排液用チューブ及びカテーテル	ヘパリン(ナトリウム塩)	ブタ小腸粘膜	米国、カナダ	組成・構造	有	無	無	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(28); 777-778	米国で2006年1月1日から2006年7月18日までに合計10州で15例のヒトでのウエストナイルウイルス病がCDCに報告された。死亡例はなかった。同ウイルス血症のドナーは11例と推定される。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												炭疽	ProMED-mail20060806.2195	CFIAの炭疽に関するupdate(2006年8月3日)によると、カナダSaskatchewanで炭疽は99施設で確認され、死亡例はウシ323頭、ウマ6頭など計481頭である。Manitobaでは16施設で確認され、ウシなど109頭が死亡している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
4	2006/10/10	68037	テルモ株式会社	模型人工肺 人工心肺装置の付属品 (心内血吸引貯血槽) 人工心肺装置の付属品 (静脈貯血槽) 人工心肺装置の付属品 (人工心肺用貯血槽) 人工心肺装置の付属品 (人工心肺用気泡除去器) 人工心肺装置の付属品 (血液ろ過器) 滅菌済み心臓用チューブ 及びカテーテル その他の人工肺(ディスプレイ ポーザブル人工心肺システム) 人工心肺用血液回路 人工心肺用ポンプ 滅菌済み血管診断用 チューブ及びカテーテル 人工心肺装置の付属品 その他の血液回路(体外 循環用血液ガス測定用セル)	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	米国、中国	組成・構造	有	無	無	感染	ProMED2006041 2-0100	中国東部の河川で、死亡したブタ数十頭が発見されたが、死因は不明である。何らかの感染症が死因ではないかと警戒している。
												ウイルス感染	ProMED2006042 0-0060	フィリピンBulacan州で子豚が致死的ウイルスによる下痢症に罹患しており、感染拡大が懸念されている。マニラでは3ヶ月ほどで豚肉が不足するおそれがある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
5	2006/10/25	68038	エドワーズライフサイエンス株式会社	ウシ心のう膜弁	ウシ心のう膜	ウシ心のう膜	米国	組成・構造	有	無	無	BSE	USDA/News Release 2006年3月16日	2006年3月16日、アラバマ州および米国農務省は、BSE陽性牛の死骸の回収を終了した。掘り起こした死骸の一部はDNA検査のための検体としてNVSL (National Veterinary Services Laboratory)に送られた。このウシは歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。
												炭疽	カナダ Saskatchewan州 農業食品局 2006年8月7日	カナダSaskatchewan州で家畜の炭疽感染が拡大している。CFIAによると2006年7月25日現在、59施設でウシ273頭が死亡した。洪水、過度の湿気、干ばつで土中の芽胞が表面に露出したことが炭疽のアウトブレイクの原因と考えられる。
6	2006/10/25	68039	エドワーズライフサイエンス株式会社	ブタ心臓弁人工血管付ブタ心臓弁植込み型補助人工心臓システム	ブタ心臓弁	ブタ心臓弁	米国	組成・構造	有	無	無	レンサ球菌感染	PLoS Med 2006; 3: e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2(SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。
7	2006/11/1	68042	ホスピーラ・ジャパン株式会社	ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロデューサーキット ヘパリン使用酸素飽和度モニタ付サーモダイレーション用カテーテル	ヘパリンナトリウム	豚の腸粘膜	アメリカ、カナダ	組成・構造	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED2006041 2-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方がよい。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	ProMED20060412-0100	中国東部の河川で、死亡したブタ数十頭が発見されたが、死因は不明であると、香港の新聞が4月11日報じた。豚の死骸は過去3日間隣接する江蘇省と浙江省とで発見されたため、。何らかの感染症が死因ではないかと警戒している。
												鳥インフルエンザ	WHO 2006年5月8日	1996年に中国の家禽から高病原性H5N1ウイルスが単離されてから、2006年5月5日までの、世界各国における動物とヒトでのH5N1トリインフルエンザ発生状況をまとめた年表である。
												レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
												鳥インフルエンザ	CDC /AVIAN INFLUENZA (BIRD FLU) 2006年6月30日	トリインフルエンザ(Bird Flu)およびトリインフルエンザA(H5N1)ウイルスに関するQ&A。今までの報告では、トリインフルエンザのヒトへの感染は、感染したトリとの接触によるものがほとんどであり、鶏肉や卵などの食品からの感染は報告されていない。たとえ生肉や卵がウイルスで汚染されていたとしても、適切に調理することでウイルスを殺すことができる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌はtuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、およびslyfに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
												細菌感染	Vet Microbiol 2006; 114: 123-133	オランダの養豚場で雌ブタからその子ブタへのArcobacter種の伝播を調べた。直腸スワブを検査したところ、雌ブタの約42%がArcobacterのキャリアであり、A. skirrowiiが最も優勢であったが、Arcobacter種は同一個体でも時期により変化した。雌ブタの羊水中、および生まれた直後の子ブタの直腸検体から親と高い類似性のある菌が検出されたことから、子宮内伝播経路の存在が示唆された。
												ニパウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1978-1979	AbuBakarらは、1998年から1999年のマレーシアにおけるニパウイルスアウトブレイク中の株の変異について、1998年にPerakで第一の、1999年に南マレーシアで第二の、コウモリからブタへの感染が発生したとしている。しかし、1999年初頭にPerakから南部の農場へ多数のブタが移動したことが調査の結果明らかとなり、北部のブタ集団内での連続的な感染が北部と南部の分離株の違いを生じさせたと考えられると、Pulliamらは提案している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	Epidemiol Infect 2006; 134: 758-767	デンマークの2つの郡でヒト感染症例から単離された Campylobacter を小売店の食品検体およびニワトリ、ブタ、ウシの糞検体からの単離体と比較した。1285 の Campylobacter 単離体を調べたところ、C. jejuni が最も優勢であった。合計で356の異なったサブタイプが見られた。国内感染症単離体の61%が食品中にも見られたのに対し、旅行関連感染症の31%しか食品中には見られなかった。
												インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 787-794	米国でウイルス性肺炎で死んだブタおよび咳、呼吸困難およびし眠状態であったブタから単離されたブタインフルエンザウイルス(SIV)は新規のH3N1亜型であった。系統発生学的分析の結果、これらのH3N1SIVはH3N2七面鳥単離体由来のヘムアグルチニン遺伝子、ヒトH1N1単離体由来のノイラミニダーゼ遺伝子を持ち、残りの遺伝子はSIV由来である。また抗原としては七面鳥ウイルスに関連があった。
												サルモネラ	Southeast Asian J Trop Med Public Health 2005; 36: 1510-1515	2003年にタイ北西部の小売市場で豚肉および鶏肉、各40検体を集め、Salmonella菌を単離、同定した。また同じ町の病院に入院中の下痢の患者から得た54のSalmonella単離体のセロタイプを調べた。豚肉の65%、鶏肉の75%が汚染されていた。豚肉ではS. Rissen (61.5%)が、鶏肉ではS. Anatum (33.3%)が最も優勢であった。ノルフロキサシンとシプロフロキサシンにはどの単離体も耐性を示さなかった。
												ウイルス感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	2006年6月末以降に中国東部で発症した原因不明の豚の大量死の原因は、豚コレラと豚生殖器呼吸器症候群と豚サーコウイルスの混合感染に関連していた。最近2、3年の間に、ブタ高熱病と呼ばれる同様の感染症が中国南部でも報告されている。微生物学者による詳細調査が行われる予定である。